

事業評価調書〔途中評価〕（平成29年度）

1. 施設の名称等

施設名称	長崎県美術館			事業所管	文化観光国際部	文化振興課
所在地	長崎市出島町2番1号			課(室)長名	本多 敏博	
総合計画上の位置づけ	基本戦略	2	交流を支える地域を創出する			
	施策	(2)	文化・スポーツによる地域活性化			
	事業群		文化・芸術による地域づくり			

2. 施設の概要

設置年月日

平成17年4月23日

設置法令等

長崎県美術館条例（平成15年12月22日）

設置目的

地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。

利用対象者等

主な利用対象者：県民及び県外客
開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）

施設内容

敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡
企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー

施設の利用率・料金体系

施設の利用料金体系

〔常設展利用料金〕

	一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	○免責事項 県内在住の小・中学生は無料。 障害者手帳保持者及び介護者1名は無料。 学校行事の一環として、県内の小・中・高・盲・ろう・養護学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料。
普通観覧料金	400円	300円	200円	300円		
団体割引料金	320円	240円	160円	240円	15名以上	

〔貸館利用料金〕

名称	面積(㎡)	利用料金(入場無料の場合)	備 考
県民ギャラリー	940	32,900円 / 日	入場料を徴収する場合は、左記の1.3倍
運河ギャラリー	170	2,890円 / 日	
ホール	210	6,500円 / 回	入場料を徴収しない展覧会等のうち、教育目的や公的機関の利用については10～3割の減免措置あり。
講座室	70	2,600円 / 回	
運河劇場	330	990円 / 回	
屋上庭園	1,200	6,100円 / 回	

類似施設の設置状況

施設名		岩手県立美術館	島根県立美術館	富山県立近代美術館
入館料	一般	410円	300円	200円
	大学生	310円	200円	160円
	高校以下	無料	無料	無料
利用者数(H27実績)		46,741人	227,657人	65,399人
指定管理者制度導入		平成18年4月1日	平成17年4月1日	平成18年4月1日
管理運営負担金(H28予算)		250,269千円	287,530千円	112,526千円
延べ床面積		13,000㎡	12,498㎡	8,195㎡
指定管理形態		管理(学芸部門は委託)	管理(学芸部門は直営)	管理(学芸部門は直営)

県予算

区 分 (単位：千円)		平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (計画)
財源	国 庫					
	その他(宝くじ)	364,495	344,170	344,653	353,624	353,587
内 訳	一般財源	5,208	15,296	38,023	5,384	9,119
	事業費＜A＞	369,703	359,466	382,676	359,008	362,706
	管理運営負担金	353,495	343,635	342,035	342,035	342,035
	その他(特別経費負担金等)	16,208	15,831	40,641	16,973	20,671
	人件費＜B＞	17,444	16,134	16,112	16,084	16,148
	合計＜C＝A＋B＞	387,147	375,600	398,788	375,092	378,854
単位あたりコスト		1	1	1	1	1

(説明)「当事業による入館者1人あたりの運営費用」＝C÷(入館者数)

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	所在地 名 称	長崎市出島町 2 番 1 号 公益財団法人 長崎ミュージアム振興財団
	代表者氏名	理事長 片岡 千鶴子
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 33 年 3 月 31 日
業 務	施設（設備）の維持・修繕等 美術館の運営（展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携） 美術館のマネジメント（集客、営業、P R、イベント企画、ボランティアの活用等） ミュージアムショップ、カフェの経営	
利用料金制	■ 導入済	未導入
選定方法	■ 公募	非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数	(目標値の根拠) 博物館・美術館で5年間で県内全市町(21市町)で実施を目指す。 アンケート5段階評価における年間平均において、80%以上の満足度を目指す。 90%以上の稼働率を目指す。		<29年度実施における変更点>			
	来館者満足度						
	県民ギャラリー稼働率						
	美術館入館者数(参考値)						
	実 績		平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (計画)
		単位					
	a 目標値		-	-	-	5	5
	b 実績値		-	-	-	9	
	c 達成率b/a	%	-	-	-	180	
	a 目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
指定管理者の収支状況	b 実績値		4.2	4.2	4.2	4.2	
	c 達成率b/a	%	105	105	105	105	
	a 目標値		90	90	90	90	90
	b 実績値		100	100	100	100	
	c 達成率b/a	%	111	111	111	111	
	a 目標値		370,000	375,000	380,000	-	-
	b 実績値		412,876	435,270	389,226	371,897	
	c 達成率b/a	%	111	116	102	-	
	事業計画(H28)						
	(千円)	実績・計画	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (計画)
収入	利用料金	72,061	-6,732		49,474	65,329	65,761
	県負担金	342,035	0		342,035	342,035	342,035
	その他	106,994	-6,407		183,391	100,587	92,804
	計a	521,090	-13,139	0	574,900	507,951	500,600
支出b		521,090	-4,444		569,464	516,646	499,180
	うち人件費	117,313	-813		113,359	116,500	117,714
収支a-b		0	-8,695	0	5,436	-8,695	1,420
配置職員数(人)	常勤 27	常勤 0	常勤	常勤	常勤 27	常勤 27	常勤 26
	非常勤 0	非常勤 0	非常勤	非常勤	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0

この収支は指定管理者が行う管理運営にかかるものであり、この他に県が直接負担したものととしては、「2 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

表その2：管理運営負担金の対象事業を定めている場合は、次の表を使用する。

指定管理者の収支状況	事業計画(H28)		平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (計画)
	(千円)	実績・計画					
負担金事業	県負担金	0	353,495	343,635			
	その他	0	1,953	316			
	収入計a	0	355,448	343,951	0	0	0
	支出b	0	355,633	343,951			
うち人件費		0	127,623	112,430			
	収支a-b	0	185	0	0	0	0
その他事業	利用料金	0	109,605	76,716			
	その他	0	124,318	113,101			
	収入計c	0	233,923	189,817	0	0	0
	支出d	0	210,866	186,020			
うち人件費		0	0	0			
	収支c-d	0	23,057	3,797	0	0	0
配置職員数(人)	常勤	常勤	常勤 25	常勤 25	常勤	常勤	常勤
	非常勤	非常勤	非常勤 0	非常勤 0	非常勤	非常勤	非常勤

5. 平成28年度事業の実施状況・実績の検証

管理運営の状況	計 画		実 績	
	< 指定管理者実施分 > 美術館の管理運営業 調査研究業務 他の美術館、博物館との連携事業 生涯学習、教育普及事業 アートボランティア事業 広報マーケティング事業 (利用料金、その他自主事業) 常設展事業 企画展事業 施設貸出事業 ショップ・カフェ事業 < 県実施分 > 施設や備品の修繕業務、長崎県美術資料収集委員会及び価格評価委員会の開催等		< 指定管理者実施分 > 施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。 収蔵作品に関する調査研究、保存修復に関する調査研究、展覧会企画に関する調査研究、生涯学習支援に関する調査研究、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。 釜山市立美術館との遠隔授業や相互ワークショップ事業及びキム館長を招いての講演会を実施した。 学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施し、12,113人の子ども達が参加した。 移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(壱岐市、松浦市) テレビ会議システムを利用して遠隔地の小中学校と遠隔授業を実施した(対馬市、長崎市(野母崎)、韓国・釜山市) 約120名のボランティアが、展示事業や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般に渡るボランティア活動を実施した。 展覧会やイベント毎にプレスリリースを配信し、取材誘致を行った。 HPを随時更新し、新しい情報の掲出と内容の充実を図った結果、スマートフォンの普及もあり、アクセス数は前年度を上回る678,430件まで伸びた。またメルマガの配信やツイッターの活用など、美術館に興味を持つ人へ定期的かつ確実に新しい情報を発信した。 (利用料金、その他自主事業) 桜島勝一や、渡辺千尋といった長崎ゆかりの作家を丁寧に紹介する展覧会の評価が高く、目標を上回る52,314人の入場者を記録した。 4月に発生した熊本地震の影響を受け、年度当初から入場者が伸び悩み、夏期に開催した「ピクサー展」で復調したものの、年間を通じて入館者が低迷した。特に「古代ギリシャ展」は目標を大きく下回り、大きな損失を計上した。 県民ギャラリー、ホール・講座室等の利用促進に努めた。 県民ギャラリーでは57展覧会、延べ展示日数360日(稼働率100%)の利用となった。県民ギャラリー等の利用者数は204,553人であり、全入館者数の55%を占めている。 指定管理者の自主事業であるショップ・カフェ事業ともに、入館者数の低迷に比例して売上げは伸び悩んだものの、例年赤字を計上していたカフェ事業は、メニューの大幅な見直し等によるコスト削減を進めた結果、4年ぶりの黒字化となった。 < 県実施分 > 冷却塔やチラーといった空調関係設備の改修工事を実施した。また、長崎県美術品等取得基金を活用して美術資料の収集を行った。	
	検 証			
	○ 年度当初に発生した熊本地震の影響を受け、年間入館者数は、5年ぶりに380,000人を下回る371,897人にとどまった。しかしながら、海外からの展覧会観覧者数も年々増加傾向にあるなど、交流人口の拡大に寄与していると言える。 ○ 県民ギャラリーの稼働率は100%と目標90%を上回ることができた。貸施設全体の利用者数は204,553人と総入館者数の55%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。			

収支計画・実績			
収 支 の 状 況	< 指定管理者実施分 >		
	(単位：千円)		
	主な項目	計画	実績
	収入 a	521,090	507,951
	負担金	342,035	342,035
	利用料金	72,061	65,329
	(うち常設展収入)	(5,893)	(6,059)
	(うち企画展収入)	(56,018)	(49,261)
	その他	106,994	100,587
	(うちショップ収入)	(52,075)	(49,858)
	(うちカフェ収入)	(20,280)	(18,225)
	支出 b	521,090	516,646
	負担金	342,035	342,035
	(うち施設維持管理費)	(10,189)	(10,189)
	利用料金	108,181	116,215
	(うち常設展支出)	(12,512)	(9,110)
	(うち企画展支出)	(95,669)	(106,743)
	その他	70,874	58,396
	(うちショップ支出)	(41,092)	(39,744)
	(うちカフェ支出)	(19,096)	(18,002)
	収支 a-b	0	8,695
< 県実施分 >			
検 証			
- 多客を期待していた企画展の入場者が伸び悩み、企画展事業で大きな赤字を計上した。 - カフェ事業については、メニューの大幅な見直し等によるコスト削減を進めた結果、4年ぶりの黒字化となった。			
指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価			B
(説明) ○年度当初に発生した熊本地震の影響もあり、総入館者数は館目標である380,000人を下回る371,897人となった。 ○生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。 ○優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境を提供しており、事業面においては期待した成果が上がっていると評価できる。 ○指定管理者の自主事業であるカフェ事業については、抜本的なメニューの見直し等によるコスト削減を図り、黒字化を達成した。			

6. 平成29年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容
○本年を長崎ジブリイヤーと位置付け、博物館で開催する「ジブリ大博覧会」に引き続き「スタジオジブリ・レイアウト展」を開催し、県内外からの多数の誘客を図る。 ○週末に大人向けのワークショップを定期開催することにより、これまで美術館に足を運んでいなかった新たな層を開拓する。 ○カフェ事業はコスト縮減を維持しながらも企画展と連動したメニューの提供などにより、黒字幅を拡大していく。

7. 平成29年度事業の評価

視点		評価	判定理由
指定管理者の行う管理運営等に関する評価	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・「スタジオジブリ・レイアウト展」を中心に大型の企画展を複数開催する。常設展では山下南風や田川憲ら長崎ゆかりの作家を紹介することで、どの世代も楽しめる計画となっている。 ・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年2回の移動美術館を予定している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。 ・アートボランティアの研修を定期的に行い、サービスの質の向上を図っている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	・施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	・企画展は、集客力のある魅力的な大型展を計画している。カフェは、収益改善を図るため抜本的な対策を実施している。
・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	・全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。	
(その他の観点) 評価区分 (a : 行われている b : 一部行われていない c : 行われていない)			

視点		評価	理由
必要性	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている	入館者に占める県民の割合が平成27年度82%、平成28年度83%を占めており、必要性は十分ある。
	・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	■ a. 適応している b. 一部適応していない c. 適応していない	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
	・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	■ a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。
効率性	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	■ a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない	熊本地震の影響もあり一時的に入館者数が減少しているものの、全国的にも高い入館者数を維持している。
	・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量より大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる	指定管理者制度以外では直営とするしかなく、その場合、人件費を中心とした県費負担は大幅に増加する。
有効性	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない	適正な施設管理を行っており、成果指標もすべて目標を達成している。また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。
	・事業効果をさらに上げる余地はないか。	■ a. 余地はない b. 一部余地がある c. 余地がある	県の中核館として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を計画的に今後も開催する。
(その他の観点)			

8. 平成30年度事業の実施に向けた方向性

区 分	現状維持	改善	移管	廃止
(説明: 30年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容) ○入館者を地震発生前の状態に回復させるため、世界遺産関連企画や、その他魅力的な展覧会の開催により、県内外からの誘客に努める。 ○建設から10年以上を経過し、設備の不具合や施設の劣化が多発しており、維持管理費の増加が予想されるため、今後も光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、大規模修繕が必要となる前に、毎日の点検及び早期修繕にしっかりと取り組んでいく。 ○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は概ね好調であり、今後も県民の積極的な施設利用を促していく。 ○指定管理者の経営基盤を安定化させるため、カフェ事業について、コスト縮減を維持しながらも企画展と連動したメニューの提供などにより、黒字幅を拡大していく。 (上段に加え、成果指標達成状況が「未達成」であるのに現状維持の場合はその理由を以下に記載)				